| テーマ | 中間試験（Ⅰ） |
|---|---|

**問題 1 （50 点）**

次の合計試算表（A）と諸取引（B）にもとづいて、解答欄の月末の合計残高試算表と売掛金および買掛金の各明細表を作成しなさい。なお、仕入れと売上げはすべて掛けで行っている。また、銀行と当座借越契約（限度額 300,000 円）を結んでおり、当座取引は当座預金と当座借越の 2 勘定制で処理している。

(A) 平成 X1 年 6 月 24 日現在の合計試算表

合 計 試 算 表

平成 X1 年 6 月 24 日

| 借　方 | 勘定科目 | 貸　方 |
|---|---|---|
| 432,500 | 現金 | 215,000 |
| 486,000 | 当座預金 | 468,500 |
| 412,500 | 受取手形 | 115,000 |
| 740,000 | 売掛金 | 475,000 |
| 100,000 | 売買目的有価証券 | |
| 140,000 | 繰越商品 | |
| 150,000 | 備品 | |
| 132,500 | 当座借越 | 132,500 |
| 75,000 | 支払手形 | 400,000 |
| 292,000 | 買掛金 | 430,000 |
| 14,000 | 預り金 | 14,000 |
| 40,000 | 借入金 | 75,000 |
| | 資本金 | 500,000 |
| 140,000 | 売上 | 1,300,000 |
| 900,000 | 仕入 | 125,000 |
| 125,000 | 給料 | |
| 25,000 | 支払家賃 | |
| 21,000 | 支払利息 | |
| 9,000 | 手形売却損 | |
| 15,500 | 雑費 | |
| 4,250,000 | | 4,250,000 |

| テーマ | 中間試験（Ⅰ） |
|---|---|

(B) 平成 X1 年 6 月 25 日から 30 日までの諸取引

25 日　売　上：八尾商店 34,000 円、山本商店 23,000 円
花岡商店の買掛金 25,000 円を支払うため小切手を振り出した。
今月分の給料を支払総額 18,000 円から所得税の源泉徴収 5,000 円を控除し、現金で支払った。
布施商店へ振り出した約束手形 10,000 円が満期となり、当座預金口座から引き落とされた。

26 日　仕　入：鶴橋商店 12,000 円、花岡商店 16,000 円
鶴橋商店の買掛金 20,000 円の支払のため、同店宛の約束手形を振り出した。
布施商店の買掛金 10,000 円につき、同店振出、瓢箪山商店受取、当店宛の為替手形を引き受けた。
山本商店から裏書譲渡された上本町商店振出の約束手形 20,000 円を銀行で割引きに付し、割引料 2,000 円を差し引かれ、手取金を当座預金に預け入れた。

27 日　売　上：経法商店 20,000 円、山本商店 24,000 円
山本商店から売掛金 50,000 円が当座預金口座に振り込まれた。
花岡商店の買掛金 39,000 円の支払いのため、経法商店宛の為替手形を振り出し、同店の引き受けを得て渡した。
前日鶴橋商店から仕入れた商品のうち 2,000 円は不良品につき返品した。

28 日　売　上：経法商店 27,000 円、八尾商店 30,000 円
経法商店の売掛金 40,000 円を同店振出、当店宛の約束手形で回収した。
布施商店の買掛金 35,000 円の支払いのため、山本商店振出、当店宛の所有約束手形を裏書譲渡した。
取り立てを依頼していた八尾商店振出、当店宛の約束手形 50,000 円が決済され、当座預金口座に振り込まれた。
備品 50,000 円を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。

29 日　休業日

30 日　仕　入：布施商店 14,000 円、鶴橋商店 20,000 円
八尾商店から 28 日に売り上げた商品の一部 1,000 円が品違いのため返品されてきた。
当月分家賃 18,000 円を小切手を振り出して支払った。
借入金のうち 15,000 円を利息 3,000 円とともに小切手を振り出して支払った。
有価証券のうち A 社株式（帳簿価額 50,000 円）を 45,000 円で売却し、代金は現金で受け取った。
雑費 3,000 円を現金で支払った。

| テーマ | 中間試験（Ⅰ） |
|---|---|

**問題２（40 点）**

次の決算修正事項にもとづいて解答欄の精算表を完成させなさい。ただし、会計期間は平成 X1 年 1 月 1 日から平成 X1 年 12 月 31 日までの 1 年である。

＜決算日までに判明した未期帳事項＞

1. 所有する売買目的有価証券について株式配当金領収証 3,000 円を受け取っていたが、その処理がされていなかった。
2. 仮受金 12,000 円は得意先からの売掛金の回収であることが判明した。
3. 店主が当期に購入した店の商品（原価 100,000 円）を私用で消費したが、未記帳であった。

＜決算整理事項＞

1. 受取手形および売掛金の期末残高に対し実績率法により 4%の貸倒れを見積る。貸倒引当金の設定は差額補充法によること。
2. 期末現在、売買目的有価証券として、A 社株式 40 株（取得原価@4,300 円）を保有しているが、決算に際して、時価に評価替えを行う。なお、A 社株式の時価は@4,125 円である。
3. 期末商品棚卸高は 617,000 円である。売上原価は「仕入」の行で計算すること。
4. 備品について定額法により減価償却を行う。なお、備品のうち 100,000 円は当期の 9 月 1 日に購入したものであり、新備品の減価償却は月割計算による。耐用年数は旧備品が 8 年, 新備品が 5 年であり, 残存価額はいずれも取得原価の 10%である。
5. 支払家賃は毎年 2 月 1 日と 8 月 1 日に向こう 6 ヵ月分を前払いしている。
6. 保険料は毎年同額を 4 月 1 日に向こう 1 年分を前払いしている。
7. 借入金は平成 X1 年 4 月 1 日に借入期間 1 年、利率年 4%で借り入れたもので、利息は 3 月末日と 9 月末日に各半年分を支払うことになっている。利息は月割計算による。

**問題３（10 点）**

解答欄の精算表の勘定科目欄の（　）内に適当な科目を記入し、さらに損益計算書欄および貸借対照表欄に適当な金額を記入して精算表を完成しなさい。なお、売上原価の計算は「仕入」の行で行うこと。